

ナキウサギと

極楽鳥

阿部光明



極楽鳥



ナキウサギ

極楽鳥は独特な色彩と特異な行動で知られるがその声は姿に似合わずギャーと鳴く。パプアニューギニアあたりに極楽鳥の生息地があり、野生の観鳥ツアーがあると聞く。極楽鳥という鳥は生態が謎とされ空気を食べて生きていくとかの憶測から、風鳥（フウチョウ）とも呼ばれていたようだ。しかし原住民は知っており、その派手なお祭りにこの極楽鳥を似せたものがある。

所変われば品変わる。私にとり北海道の希少生物のナキウサギは極楽鳥のイメージと重なる。幼友達が以下のよう到大雪山でのナキウサギとの遭遇を伝えてきた。

声はすれど姿は見えず ずーっとそんな存在でした。そして今回、私達の前に現れたそのうさぎは1分ほど愛嬌を振りまいて、小さな葉を一枚くわえて巣穴に入っていました。6人の仲間には「かわいいー！」と立ちすくんで、一秒でも私達の前にいてくれる事を願っていたのです。

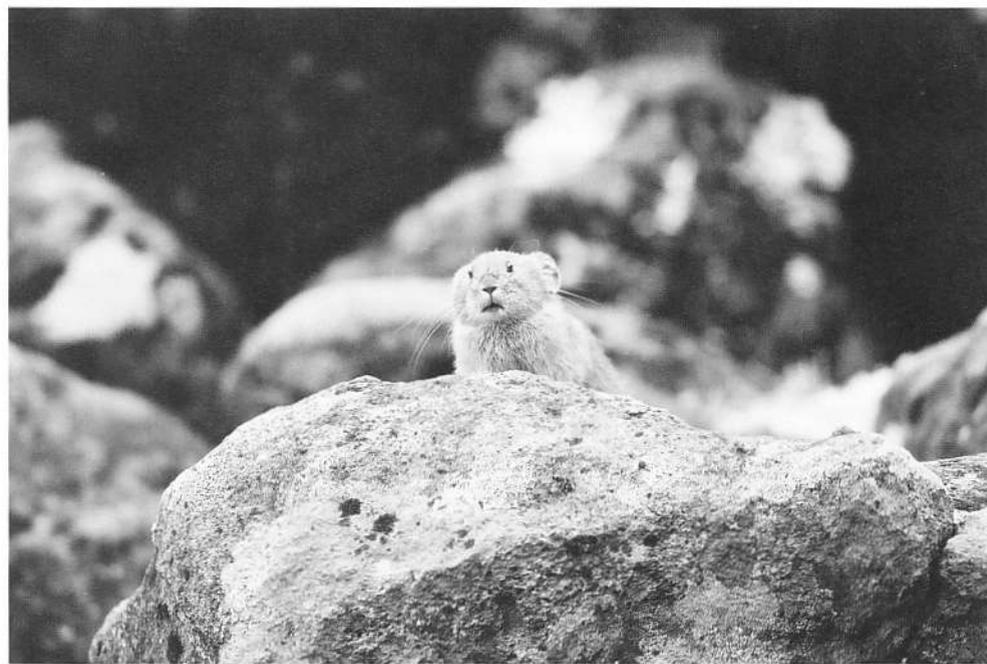
ナキウサギは北海道が大陸と陸続きの時の生物で、氷河期の生き残りといわれ様々な生態が分かっていた。天然記念物への動きもあるようだがまだ指定されていない。

特徴は、

1. 冬眠しない
2. 排泄物を何度も食べ直す（エコ生活の見本?）
3. 岩の上での瞑想ポーズは有名
4. 生態が謎で、動物園で飼えない
5. 普通のウサギに似合わずチチッ！と鋭い鳴き声を発する

等々である。このナキウサギ、大正時代に我が北見地方で発見されたという。当初ネズミと間違われゴンボネズミといわれた。（ゴンボはゴボウの北海道弁）それが良く観察すると尻尾が短く、兎跳びで走ることから足がつかうた。

もし民族文化研究で北見地方の住民の生活様式が分かるとする。そしてそのお祭りの中で、時に瞑想、時に奇声を発し飛び跳ねる場面があったら、そのモデルはナキウサギに違いない！



ナキウサギ写真提供：札幌市在住 佐伯 様